

核心は麓にあり

白山 大笠山～笈ヶ岳

今年のGWは女子二人で地元石川、富山、岐阜県境の笈ヶ岳縦走を計画した。この付近は夏に沢登りも考えていて山域の雰囲気もつかんでおきたい。

【日程】

2017年5月4日(木)
～5月6日(土)

【メンバー】

佐藤(里)(L)、竹澤

【地形図】

上梨、西赤尾、中宮温泉

【記】佐藤(里)

5月4日(木) : 晴

砺波行きバス予約が取れず高岡行きチケットを取る。朝6時バスで高岡駅に到着し、列車で砺波平野を眺めながら城端駅に到着する。この日は城端曳山祭りが開催されており、駅周辺は幾分にごやかだ。駅兼観光案内所でポットのお湯を分けてもらいカップラーメンを食した後白川郷行きのバスに乗る。1時間ほどで西赤尾林道入口に到着し、出発の準備を整える。

今日の最高気温は25度らしく、既に真夏の太陽の下林道を行くと暑さで汗が噴き出てくる。それでも800mを超えると林道にも残雪が出てきた。ブナオ峠では大門山往復の単独登山者と言葉を交わすが、この方が今回の山行で唯一出会った人だった。

峠からは多少登山道が出ていたものの、たっぷり残る雪の中を歩く。2時間ほどで快晴無風の稜線に到着し、今日はここまでとしてテントを張る。夕方になっても気温が高く暖かいので外で食事をとり、美しい金沢市街の夜景を眺めながら床についた。

5月5日(金) : 晴



いう間に飲みほしてしまい、雪を融かしながらの行進となる。

1800mを超えるとさすがに涼しくなり、やがて大笠山に到着。ここは笹に囲まれ風がなく、ベンチで休憩できてとても快適。しかしここから笈ヶ岳までは登山道がなく、雪がつながっていないければ藪漕ぎ必至。そんな行程を知らせるかのように大笠山からの下りは深い笹藪で覆われている。その藪を進むと今度は割れた雪庇の間を縫うように進まないといけない。足が地面

5時出発。今日は笈ヶ岳までの行動予定だ。赤摩木古山から自分が進む稜線が見えてくるとその長さに怖気づく。竹澤さんは全く気にしないらしく飄々と歩いていく。

雪は時々消えて藪が出ていたが、登山道がついているのでさほど苦にならず進んでいく。それにしても暑い。見越山を越えると少し薄曇りとなったがそれもすぐに消え去り、その後はずっと灼熱の太陽が雪面を照り返す。1L以上の水はあっと



につかない藪と割れた雪庇を交互に登っては降り、降りては登るを繰り返すとやがて笈ヶ岳手前の1780mポコに到着した。

ここから30分ほどで山頂に到着するだろうが、その先は中宮温泉からの登山者で茶色い踏み跡だらけのはずなので、美しいこの場所に幕を張る。ここまで頑張ってきた天ぷらセットで林道で採れた山菜を揚げてツマミにしてささやかな宴を催した。

5月6日(土)：雨

2時起床。空は星が瞬いていたが、食事を済ませテントをたたむ頃には分厚い雨雲が北西から近づいてきていた。山頂まで雪がつながっているルートをチェックし、周辺が明るくなると同時に出発する。笈ヶ岳直下の急斜面を登り、最後の藪をかき分けると予想通り30分くらいで山頂に到着した。藪に覆われ景色は見渡せないが二人で交互に記念写真を撮り握手。長い道のりだったがやったぜ踏破したぞ！

雨がぽつぽつ降ってきたので感慨にふける間もなく大勢の登山者につけられた茶色い踏み跡をたどりながら中宮温泉に向け下山を開始する。温泉は11時からだし下山が早いと困るね、などと軽口を叩いていたが、この後本当の試練が待っているなど知る由もない。

最初は弱い雨だったがやがて本降りになりそして土砂降りになってしまった。とはいえ気温は高く、歩いていれば寒くない。冬瓜山では多少のルーファイを強いられたがその他はいたって快適な下山だった(ここまでは)。1200m付近で雪は消えその後は踏み跡をたどるのだが、1000mを切ったあたりから(登りなら)胸を突くような泥の急坂となり、岩場も現れトラロープだらけとなる。木の根も滑りやすく、転べば増水した谷に真っ逆さままで緊張する。しかもザックが濡れて重くなり下りの足にかなり響く。

やがて谷の水音が大きくなり麓が近くなってきたのがわかる。そして東屋と林道が見えてきて終わった一、とほっとするのもつかの間、目の前を川幅3m以上の茶色い激流が横切っているではないか。ネットで拾った記録ではこの沢についてなんのコメントもないので普段は登山靴でひよいひよいわたる程度の小さい沢なんだろうが、今は全く姿を変えてしまっている。橋を探すけどどこにもない。他に道はなく水が引くまでビバークか、と頭を抱えた。

ここで渡渉訓練を思い出してどこか渡れそうなところを探す。1か所流れが緩そうな場所があるのだが水は茶色で深さもわからない。ロープを取り出し末端交換三角法で安全を確保、流されたらすぐロープを引くよう竹澤さんにお願ひし、空身で沢に入ってみる。腰まで浸かり結構深い、瀬ワキの流れは緩やかだが流心はやはり水圧が強く体が持っていられそうだ。

と、丁度そこに対岸の木から伸びる蔓が手に届く。思い切り引っ張ってもびくともしないのでこれは行けると確信し、戻ってザックを背負い体を重くしてから再び渡渉開始。蔓にしがみつきながら腰まである流心を越えた。竹澤さんには末端交換三角法の間を通過する要領でロープを張ったまま渡ってもらった。沢の技術が生かされて本当に良かった。それでも蜘蛛の糸のような蔓がなければ二人とも渡れなかったな。

アドレナリン大放出のまま中宮温



泉駐車場に到着し興奮状態で下山連絡を入れた後、突然寒けを感じ足早に温泉を目指した。施設に到着したころはアドレナリンもなくなり、二人とも放心状態で温泉にプカプカ浮いていたのだった。

まあのだ元過ぎればなんとやら、楽しい思い出しか残らない素敵な女子旅だった。そういえば竹澤さんが一言、「普通の山でもロープはあった方がいいですね！」だって。彼女にとって残雪期の笈ヶ岳は一般縦走路、普通のお山なのだ。何かすごいものを持っていると感じたのだ。

【行程】

5/4 西赤尾(9:00)～ブナオ峠(13:30)～稜線 1490m(15:45)C1

5/5 C1(5:00)～赤摩木古山(5:30)～見越山(8:00)～大笠山(12:00)～笈ヶ岳手前ピーク 1780m(15:00)C2

5/6 C2(4:30)～笈ヶ岳(5:10)～冬瓜山(7:00)～中宮温泉(12:00)